

第一回館山市議定会例会會議録（第三号）

一、昭和五十七年三月十五日（月曜日）午前十時

二、館山市役所議場

三、出席議員 二十四名

一番 神田 守隆	二番 石井 謀
四番 横溝 功	五番 福原 勤
七番 古賀 礼四郎	八番 石井 昌治
九番 松下 正己	一番 林 豊
一二番 栗原 一雄	一三番 近藤 好雄
一四番 渡辺 昭夫	一五番 伊藤 幸太郎
一七番 黒川 平治	一八番 流山 源次郎
一九番 石井 輝久	二〇番 石井 武敏
二一番 吉田 勇治郎	二二番 藤田 益治
二四番 和田 一郎	二五番 五十嵐 昇
二六番 伊賀 多朗	二七番 石井 正
二八番 安澤 徳順	二九番 安西 益男
欠席議員 二名	
二三番 菊井 敏博	三〇番 山口 康

一、出席説明員

第一号から収入役を除く。第一号に農業委員会会長を加える。

二、出席事務局職員

第一号に同じ

一、議事日程（第三号）

昭和五十七年三月十五日午前十時開議

日程第一 議案第

八号

昭和五十六年度館山市一般会計補正

予算（第八号）の専決処分の承認に

日程第二

ついて

議案第 九号

館山市附属機関設置条例の一部を改正する条例の制定について

議案第 十号

非常勤の特別職の職員に係る報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議案第 十一号

館山市長、助役、収入役の給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議案第 十二号

館山市教育長の諸給与及び勤務条件等に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議案第 十三号

館山市市税条例の一部を改正する条例の制定について

議案第 十四号

館山市児童遊園の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議案第 十五号

館山市廃棄物処理施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議案第 十六号

館山市廃棄物の処理及び清掃に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議案第 十七号

館山市国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定について

議案第十八号 館山市防災会議条例の一部を改正する条例の制定について

議案第十九号 館山市消防団条例の一部を改正する条例の制定について

議案第二十号 館山市災害等罹災者見舞金給付条例の一部を改正する条例の制定について

議案第二十一号 公有水面埋立免許に関する答申について

議案第二十二号 市道路線の認定について

議案第二十三号 昭和五十六年度館山市一般会計補正予算（第九号）

議案第二十四号 昭和五十六年度館山市国民健康保険特別会計補正予算（第二号）

議案第二十五号 昭和五十六年度館山市ユースホステル特別会計補正予算（第二号）

日程第四 請願第一号 地域の公共交通確保に関する請願書

日程第五 請願第二号 し尿くみ取り料金の値上げに反対する請願書

日程第六 請願第三号 日本農業再建・食糧自給率向上のための食管理制度拡充を求める請願書

開 議 午前十時十八分開議

○議長（林 豊君） 本日の出席議員数二十四名、これより第一回市議会定例会第三日の会議を開会し、直ちに本日の会議を開きます。

す。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

日 程 の 追 加

○議長（林 豊君） お諮りいたします。ただいま市長から議案第二十七号財産の取得の変更に付いてが提出されました。

この際、これを日程に追加し、議題といたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。よって、この際議案第二十七号財産の取得の変更に付いてを日程に追加し、議題とすることに決しました。

議案並びに説明書を配付いたさせます。

（議案、説明書配付）

○議長（林 豊君） 配付漏れはありませんか。——配付漏れなしと認めます。

議 案 の 上 程

○議長（林 豊君） 議案第二十七号財産の取得の変更に付いてを議題といたします。

議案の朗読を願います。

（書記朗読）

○議長（林 豊君） 朗読は終わりました。

議 案 の 内 容 説 明

○議長（林 豊君） 議案の説明をお願いします。

（市長半澤良一君登壇）

○市長（半澤良一君） 議案第二十七号財産の取得の変更について提案理由の説明を申し上げます。

去る十二月定例市議会におきまして議決をいただきました西岬地区通学用道路用地の購入に係る財産の取得について、取得予定価額五千二百六十七万八千二百五十円を、四百七万九千六百八十五円減額して、四千八百五十九万八千五百六十五円に変更しようとするものであります。

減額の理由は、取得予定面積五千四百二十三・六八平方メートルのうち、千六百六十一・六八平方メートル分の取得予定価額が変更になったことによるものであります。

よろしく御審議のほどお願い申し上げます。

○議長（林 豊君） 説明は終わりました。

御質疑を願います。——御質疑なしと認めます。よって質疑を終結いたします。

委員会付託の省略

○議長（林 豊君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託を省略したいと思ひます。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。よって委員会の付託を省略することに決しました。

討 論

○議長（林 豊君） これより討論を行います。

（一番議員神田守隆君登壇）

○一番（神田守隆君） 議案の第二十七号であります。西岬通学用道路の取得に関する契約の変更ということで、それ自身としては契約金額が減額になった、こういうことでありますが、この問題については、西岬の住民の意向を十分汲んだ上での学校統合を、しかも準備万端を整えて行いべきところであろうかと思ひます。しかしながら大変にこの学校統合自身、住民の意向に反した形で進められたこと、しかもその中であたふたと統合の準備が進められた、こうした中で、こうした問題が生じたものと考えるわけがあります。したがってこうした執行部の姿勢には私は同意できないということ、この議案について反対の討論といたします。

○議長（林 豊君） 他に討論ございませんか。

（七番議員古賀礼四郎君登壇）

○七番（古賀礼四郎君） 私は、二十七号議案に対して賛成の討論をいたします。

そもそも学校統合という広大な計画のもとに、種々の具体的問題がこれから惹起してくるものと思ひます。単に、市の土地測量の問題、こういうこと一つが現在出てきているわけで、今後ますますいろんな点で実際に実施しようという段階にはまた修正があるものと思ひます。人間のやることでですから間違ひはありません。ですから、一つをとらえて単に反対ばかりしていったんでは西岬の発展はあり得ないと、それから通学の問題解決はあり得ないと思ひますので、この点で賛成の討論といたしたいと思ひます。

○議長（林 豊君） 他に討論はございませんか。——討論なしと

認めます。よって討論を終わります。

採 決

○議長（林 豊君） これより採決いたします。

採決は起立により行います。

本案を原案どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

○議長（林 豊君） 起立多数であります。よって本案は原案どおり可決されました。

議 案 の 上 程

○議長（林 豊君） 日程第一、議案第八号昭和五十六年度館山市一般会計補正予算の専決処分の承認についてを議題といたします。御質疑を願います。——御質疑なしと認めます。よって質疑を終わります。

委員会付託の省略

○議長（林 豊君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託並びに討論省略、直ちに採決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。よって決定いたしました。

採 決

○議長（林 豊君） これより採決いたします。

本案を承認することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。よって本案は承認することに決しました。

議 案 の 上 程

○議長（林 豊君） 日程第二、議案第九号乃至議案第二十二号の各議案を一括して議題といたします。

質 疑 応 答

○議長（林 豊君） これより質疑に入ります。

通告がありますので発言を許します。

一二番議員栗原一雄君。御登壇願います。

（一二番議員栗原一雄君登壇）

○一二番（栗原一雄君） 議案第十六号館山市廃棄物の処理及び清掃に関する条例の一部を改正する条例の制定についてでございます。

本定例会の冒頭に、し尿収集手数料及び処理手数料の改定について説明を受けたわけでございますが、約二倍近い値上げではその料金について市民が困惑し、一般的には理解できないのではないか、したがって納得のできる料金体系をとるべきだと考えます。まず、その大きな理由として、くみ取り方式を採用している家庭はほとんどが一般家庭で、水洗に家屋を改築しない家庭が多いでございます。

もちろん、衛生センターは、市民の健康管理をはじめ本市の実情を考慮いたしまして技術の粋を集めた最新式の無公害、高度処理方式のために、維持管理費が従来と比較いたしますと膨大な経費を必要とするものでございますが、健全財政の原則から考えた財政収支の健全化のための値上げでは、生活費に収集料金の値上げは大きく影響するものでございます。

そこで、お尋ねをいたします。

まず、近隣市町村とのいわゆる均衡が必要だとよく申されますが、この近隣市町村とのいわゆる均衡はどのようになっていくのかどうか、県下におきましてはランクはどのくらいに位置づけされているのかどうか。それらにつきましてまずお尋ねを申し上げます。

（市長半澤良一君登壇）

○市長（半澤良一君） 地域的な近隣市町村の均衡ということでございますが、周辺の状況をトリットル当たりして比較してみますと、長狭地区衛生組合が百円、朝夷地区が六十一円十銭、鋸南地区が八十三円三十銭となっております。朝夷、鋸南両地区は高度処理を採用しておりませんし、長狭地区につきましては高度処理でございますが、受益者負担の割合についての考え方の違いによるものと考えます。

当市としては、限られた一般財源から充てるということとは、それだけのしわ寄せがどこかに出るわけで、行政のいずれかの部門に出てくるわけでございますので、慎重に検討し、また清掃事業運営審議会におきましては引き上げもやむを得ないところだろうという御答申をいただきまして提案いたしました次第でございます。

なお、県内でのランクから考えますと、現在の段階では上から三番目でございます。最高はトリットル当たり百三十円でございますが、いずれも高度処理をしている処理場でございます。

以上、答弁を終わります。

○二番（栗原一雄君） 清掃法によります廃棄物の処理は自治体が責任を持つべきだと考えます。したがって、施設を新設をいたしますと、年々進歩する技術の上昇に伴いまして高額支出になってくるわけですが、合わせて人件費等についても同じことが言えるのですが、公共団体の財政は個人経済のように収入によって支出を定めるのではなくて、必要な財政需要をまず正確に定めまして、しかる後にそれに応ずる収入を決めることを要するといわれておりますが、市当局におきましてもっと負担をすべき部分がたくさんあるのではないかと思います。どのように検討されたかどうか。

それから、現在は、一般家庭におきましては、ほとんどが共稼ぎでございます。したがって、日中におきましてはほとんど家庭にいないという家庭が多うございます。しかしながら、今回の値上げによりましての一世帯当たり平均月額額はどのくらいになるかどうかお尋ねを申し上げたいと存じます。

○民生部長（鈴木 力君） 現行料金六十四円でございますけれども、大体夫婦と子供二人の標準家庭からみますと、一カ月当たり八百四十五円ということでございます。改定いたそうとする料金からみますと、四人の標準世帯におきましては千五百九十円となっております。

○一二番（栗原一雄君） ただいま審議いたしております十六号で

ございますが、受益者負担の原則は、均一に賦課する租税とは異なるものですが、しかし強制的と申しましょうか、一方的に賦課できるものですから租税と同様であろうと私は考えるわけであります。受益者負担の原則は、利益を受ける者の受ける限度において経費の一部を負担するものとするというもので、当然一般経費に充てることを目的とするものですから、行政においても当然必要経費の負担をすべきだと思います。そういった意味から申し上げまして十分行政におきましてはこの値上げについて考慮すべきだと私は考えます。

それから、現在の十リットル単位でございますが、ガラスケースでは、非常に少量の場合、非常に正確性を欠くのではないかと思います。したがってガソリンスタンドのようなデジタル方式と申し上げましょうか、そういった見やすい、しかも正確に読み取る方法、これらについてどのように検討されたかどうか、お尋ねいたしたいと思ひます。

○民生部長（鈴木 力君） 従量制によりまして、各家庭でくみ取りをいたします際の計量でございますけれども、これにつきましては、御指摘のように確かに目盛りそのものが大ざっぱでございますまして、細かく、正確な読み取りというのは非常に困難でございます。ひとり館山市だけでなく、全国的に現在のメーターを使っておるわけでございますが、従量制に移行することによりまして、従業員に対しましては努めて正確に、できる限り正確に計量いたしましたして、料金を取り過ぎのないように、また取らな過ぎのないように適正料金を徴収するというところで従業員にも申し付けてございまして、現段階におきましては、計量の困難な中でも努

めて適正の料金をお願いするように計量をいたしております。

○一二番（栗原一雄君） 他につきましては、委員会等によって質疑を行いたいと思ひます。

○議長（林 豊君） 以上で一二番議員君の質疑を終わります。

次、一番議員神田守隆君。御登壇願ひます。

（一番議員神田守隆君登壇）

○一番（神田守隆君） 通告に基づいて質問いたしたいと思ひます。議案の第十号、十一号、十二号についてであります。市長、助役、収入役、教育長、あるいは議員らの給与、報酬等のアップについてであります。

報酬審議会での審議についてであります。一月十二日に諮問をして、一月二十六日に妥当との答申を得たというふうにしていますが、この審議は何回行われたのか、審議委員は誰々なのか、適当とする意見は全審議委員によるものとして採決されたものであるのかどうか、違ふとすれば少数意見はどのようなものがあったのか、こういう点についてお聞かせを願ひたいと思ひます。

第二点は、地方交付税の基準財政需要額では、市長の給与及び議員の報酬は幾らと算定をされているのかお聞かせ願ひたいと思ひます。

第三点目は、地場賃金の動向について、市当局はどのように把握をしているのかお聞かせを願ひたいと思ひます。率直なところ景気低迷の折、賃上げが押さえられたり、なかなか地場賃金の上昇が見られないということをお聞かしておるわけでございます。こうした動向について市当局としてはどのように把握をしているのか、こういう点についてであります。

次に、議案の第十六号館山市廃棄物の処理及び清掃に関する条例の一部を改正する条例の制定についてであります。

まず第一点は、清掃事業運営審議会に諮問をした結果、適当とする旨の答申を得たというふうになっているわけですが、本来館山市附属機関設置条例によれば、清掃事業運営審議会が、清掃事業計画にかかわる事項について必要な調査、審議を行う機関としているわけで、値上げのよしあしを審議するということについてはどうかと思うわけがあります。ここに八人の知識経験者ということで構成されていますが、これは誰々なのか。そして清掃審議会の中ではこの全員一致の意見として値上げの議案が承認された、こういうことであるのか。少数意見はあったとすればどのような意見なのかお聞かせを願いたいと思います。

第二点目は、人件費を除く運営費用を収集料金に算入するということで、そのことについてどういう論拠があるのか、お聞かせを願いたいと思うわけであります。

比較のために、長狭の、鴨川の場合は、リッター十円のうち原価構成はどのようになっているのか。収集原価と人件費を除いた処理原価は幾らなのかお聞かせを願いたいと思います。

第四点目が、人件費を除く運営費用を収集料金の原価にするといい、こういうような考え方が表明されているわけですが、けれどもこうしたことは、今後の、たとえばごみ処理場の建設というような問題を控えているわけですが、こうしたことについても同じ考えて進むとすれば大変大きな問題点をさらに広げるというふうに思うわけで、こうした考え方を今後さらに広げるお考えなのかどうか。

さらに、先ほど来も質問のございました従量制移行という問題であります。昨年、従量制移行に際しまして計量の正確性ということでどうなのか、ということで大変議論になりました。一年経った現時点で住民からの苦情はどのようになっているのか。計量の正確性についての問題は解決しているという認識なのかどうかお聞かせを願いたいと思います。

次に、議案の第二十一号公有水面埋立免許に関する答申についてでございます。

埋立面積が一万六千四百七十四・四二平米と、相当な埋め立てと思います。その用途は埠頭用地ということですが、具体的にはどのような港となるのか、館山港の整備計画と合わせて御説明を願いたいと思います。

また、干潮時の海面下何メートルの港となる計画なのか。埋め立ての実施年度はいつなのか。

当然、漁業権との兼ね合い等あると思いますが、漁協との協議はどのようになっているのか、お聞かせを願いたいと思います。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 神田議員の御質問にお答えをいたします。

議案第十号、第十一号、第十二号に関連してでございますが、第一点は、報酬審議会に関する御質問でございますが、一回開催いたしましたして、いずれも全委員の方々が妥当と認めたものでございます。

地方交付税の積算基礎になっている金額については、ただいま調べさしておりますので、後刻御答弁いたします。

それから、地場賃金との比較でございますが、特に館山地区の

賃金とは比較はいたしておりません。

それから、報酬審議会の委員の名前は、総務部長より御答弁をいたさせます。

議案第十六号でございますが、清掃審の委員の名前は、これも民生部長のほうから御答弁いたさせます。

全員かどうかという御質問でございますが、全員やむを得ないものという賛成意見でございました。ただし、これについては特に市の広報等を通じて市民の納得を得られるような説明をするということのような附帯意見があったというふうに伺っております。

長狭衛生組合の場合につきましては、百円ということについては伺っておりますが、その内容までについては伺っておりません。それから、人件費を除いてほかの経費を受益者負担として市民に負担を願うのかどうかという御質問でございますが、従来もこういう方向でやってまいりましたし、今後もしうした考え方でやっていくわけでございます。

従量制移行に伴う計量の問題については、従量制移行に伴いますときにいろいろ御審議いただいたわけでございますが、現在の段階ではガソリンスタンドのような、あるいは正確な計器はございませんので、運営によって正確さを期す、そういうことで出発しましたし、現在もまたそういう機械もございませんので、そうした方向で正確さを期しているわけでございます。

苦情の件については、また民生部長のほうから御答弁をいたさせます。

それから、議案第二十一号でございますが、目的は、館山港の埠頭機能の整備を実施し、施設の充実に努めるものでござい

す。

埠頭用地は第一工区と第二工区に分かれておりまして、第一工区は六千八百十九・六五平米、第二工区は九千六百五十四・七七平米でございますが、この計画は、第一工区はマイナス五・五岸壁を一バース、工期は五十七年度から六十年まででございます。第二工区はマイナス五・五岸壁一バース、マイナス四・五メートルの岸壁一バースでございます。工期は五十九年度から六十二年まででございます。両区で六カ年計画となっているわけでございます。

本埋立は、第六次港湾整備五カ年計画において、県が整備していく理由から、今回埋め立て申請をするものでございます。

なお、漁業組合については、了解済みでございます。

以上、答弁を終わります。

○総務部長（石田雄一君） 神田議員さんの質問に対します市長の答弁に補足させていただきます。

まず、審議会の関係でございますけれども、委員はだれかというところでございますが、審議会の委員は、市の区域内の公共的団体を代表する者五人、それから学識経験を有する者五人、計十人をもって構成されているわけでございますけれども、公共的団体等を代表する者につきましては、館山市農業協同組合長、それから漁業協同組合連合協議会長、館山商工会議所専務、館山市婦人団体連絡協議会会長、富士ディーゼル労働組合委員長、それから二名該当でございますけれども、会社の役員三人、それから商店の経営者一人、中小企業者一人の内容になっております。

それから、二番目の質問でございますが、地方交付税上の算定

の基礎でございますが、議員の報酬、それから委員等の報酬、市町村長等の特別職の給与、これはいずれも人件費上の積算がされておりまして、報酬、給料、あるいは職員手当等、こういったものが入っているわけでございますが、額にいたしますと、市長月額七十五万五千元、助役六十万円、収入役五十一万五千元、議会の関係でございますが、議長月額十七万円、副議長十四万九千元、議員十四万一千円、なお教育長につきましては五十六万二千五百円でございます。

それから、いま一点でございますが、地場賃金との関係におきましての考え方でございますけれども、本市の場合、いろいろ設置上の規模等の問題がございまして、特に独自の賃金調査というものをしておりませんけれども、国、県等の関係におきましての勧告の内容に沿っての検討を進めていただいております。

○民生部長（鈴木 力君） 市の清掃事業運営審議会の委員の構成でございますけれども、現在、知識経験者八名によりまして審議いたしておるわけでございますが、内容といたしましては、議員さん四名、それから保健所の所長さん、農協団体の代表の一名、それから漁協団体の代表の一名をもちまして、八名で委員構成をいたしております。

それから、昨年の四月にくみ取り料金を人頭制からすべて従量制に移行したわけでございますが、その過程におきまして、環境保全公社で取り扱っております、いわゆる料金の収集に關しまして、苦情というようなことで、直接公社あるいは市の衛生課のほうに持ち込まれました内容でございますけれども、移行した当初のいわゆる四月、五月分の料金の徴収にあたりましては、大体三

カ月ぐらいいは毎日いわゆる収集量が多いじゃないか、あるいは料金が多いじゃないか、計量の方法、容量に対する照会というものが大体四、五件毎日あったわけでございます。これが大体一カ月から三カ月間、こういった照会がなされております。特に人頭制であった家庭から従量制に移行したことによって額そのものが上がったというケースがあるわけでございまして、これらの家庭から照会、苦情という形で電話でもっての応答がなされております。最近に至りましては、ほとんど定着いたしまして、これら従量制の移行によりましての苦情というものはほとんどないというところでございます。

以上でございます。

○一番（神田守隆君） 報酬アップの件についてであります、とかくこの議員、あるいは特別職の報酬、給与等のアップの問題と、いうのはお手盛りとの批判を住民のほうからよくされるわけです。それだけに報酬審議会という審議機関が住民に開かれた機関として行われることが大変重要な問題である、こういうふうに思うわけで、この報酬審議会の審議については議事録、あるいは公開制というようにすることについてはどういうふうになっているのかお聞かせを願いたいということですが。

廃棄物の処理及び清掃に関する件であります、館山では今度の収集原価とそれから処理原価、特に今回の場合には処理原価の大幅なアップが今度の料金的大幅な値上げの原因になっている、こういう理解をしているわけですが、そうした中で市長さんはこれまで処理原価のうち、人件費を除いた分は全部受益者負担だ、こういうお話であるわけです。

そういう方式、これを長狭衛生組合の場合にはリッター十円という——リッター百円ですか、こういう中で大体の原価、あるいは処理の原価、こういったものがどういうふうになってこの百円という料金が設定されているのか、こういうことを聞いているわけなんで、そういう調査がないとすれば、十分、委員会の審査までにきちんと資料をそろえていただきたいということですね。もし、あるとすれば、この席で具体的にお話し願いたい。

それから、ごみ処理場の建設問題ということもあるわけで、こうした中で大変危惧を感じるわけですけれども、こうした市長さんの受益者負担論はこのごみ処理場についても同じ考え方で進むのかというような大変大きな問題を持っていると思いますので、そのへんについてのお考えをお聞かせ願いたい。

それから、公有水面の埋め立て免許に関する答申の問題であります。昨年館山の港を軍港として利用するというような問題が議会でも論議をされました。私はそういうことがあってはならないというふうに考えるわけで、こうした問題について軍港等の、寄港はあり得ないことと、こういうふうに今度の港の整備の問題に関してそういう理解をしていいのかどうか、市長さんのお考えをお聞かせ願いたいと思います。

○総務部長（石田雄一君）　まず第一点の審議会につきましても、公開制の問題、議事録等の公開の問題でございますけれども、現在本市の審議会の過程というものは一応公開制にいたしておりますので、個々の委員さんの発言内容等も省略いたしまして、審議会としての答申そのものについては表に出るわけでございますけれども、ただ地方公務員の給与制度の公開というものを住民に納

得をいただく上での考え方といたしまして、国のほうでも地方自治体の広報誌による掲載ですとか、あるいは議会に提出いたします給与費の説明書の中身もいさ少しわかりやすいような内容に改めるといような方向も出てまいっておりますので、今後審議会の運営につきましては前向きに運営を図ってまいりたいというふうに考えております。

○民生部長（鈴木　力君）　長狭衛生組合のし尿収集料金の設定の仕組み、あるいはまた経緯につきましては、よく調査をいたしまして、常任委員会におきまして明確にしてお答えいたしたいと思っております。

○市長（半澤良一君）　今後に予想されますごみ処理費の問題でございますが、やはり人件費だけは市で持とう、それ以外のランニングコストは住民の方に御負担願うというような考え方で進みたいと考えております。

港の問題でございますが、これが軍港化するというようなことは考えておりませんし、あくまでも商港としての整備を目的としているわけでございます。

○一番（神田守隆君）　報酬等審議会については、今後公開の問題については前向きに検討するということですから、そういうことで十分検討をいただきたいということを要望しておきたいと思っております。

それと、ごみ処理場について同じ考えで進むというお話で、これは大変重大な問題だというふうに思うわけです。ごみ処理場というのはこれまではそういう考え方は全くなかったと思われうわけですが、そういう点では市長さんの考え方が大きく

変更されたというふうに理解しなきゃいけないんですけれども、そういうことでよろしいんですか。

それと、港の問題についてはわかりました。

(「ごみの料金なんて提案されてないよ、議題外。」と呼ぶ者あり)

○議長(林 豊君) 一番議員さん、いまごみの収集についての議題ではございませんので、それはまたあとにしてください。

○一番(神田守隆君) 住民負担の原則的な考え方ということで、今度の問題打ち出されているわけです。住民負担の原則的な考え方ということであるとすればいろんな問題を含んでいるわけで、そういう中でし尿処理料の値上げの問題の妥当性を考えよう、こういう趣旨で質問しているわけなんで、これが限定された問題として考えられているのか、あるいは市政全体として、一般的の問題として考えられているのか大変重要な問題であると思いますので、あえて質問しているわけでございます。

○市長(半澤良一君) 受益者負担の限界をどこに置くか、公費でどこまで負担すべきか、住民がどこまで負担すべきかという問題は大変むずかしい問題でございます。それぞれの業務の性質とか範囲とか、さらにはそれぞれの市町村の財政規模、あるいは財政事情、そしてさらにまた住みよい都市としての諸機能の充実の仕方、そういうようなものによっていろいろ違ってくるんだらうと思われま。

当市の場合、限られた財源の中で、近代的な都市建設のための事業を積極的に進め、同時に経常的なサービス業務についてもまんべんなく財政負担をしていくということは不可能でございます。

す。あれもこれもということではなくて、あれかこれかという選択をしていかなければならない財政状況だと考えるわけでございます。

そういう意味で、し尿処理手数料については、人件費のみを市が負担して、そして残りの経費は市民に負担していただく、そういうふうに考えてきたところでございまして、市によって財政状況のいいところはただにしているところもございまして。しかしそういう市を検討してみますと、まるで館山市の財政力と違ひますし、予算規模も大きいところ、そして公共下水道も発達し、住民の世帯のうちでし尿くみ取りの比率が少ない、そういうような事情があるわけでございまして、館山市でもっとすべての施設が、近代的な施設が整っていて、ほかにやることがなければただにしてもいいと思いますが、問題はそうした各都市の財政事情、あるいは財政規模、そういうったようなものによって決まるべきものだと考えます。

○議長(林 豊君) 以上で通告者による質疑を終わりますが、通告をしない議員で御質疑ございませんか。

○一番(石井輝久君) 十六号議案につきまして若干の質問を申し上げます。

第一点は、し尿収集手数料の料金体系として百二十円にしようという提案がなされておりますけれども、これの原価計算——提案されているのはリッター当たりでございますけれども、議論するときになると、十じゃなくてリッター当たりになりますから、どっちで議論していったらいいのか。リッター当たりにしたしましうか、十分の一。どうも事務当局はそのような計算方法をと

るようですから。つまりリッター当たりの料金を決定するに至る過程でその原価をどのような方法で決定されているのか。いわゆるプリンシプル、原則的に、こういう、こういう、こういうことで、こういう原価があるんだよということの基礎的な説明をまず承りたいと思います。

その基礎的な経費と申しますのは、ひとつこの際、第一点の質問に対する答弁では、投入料は除外した収集原価の御説明、これは項目だけですよ、こういう項目で料金の決定をしていくんだという原則的なことについて、まず第一点お伺いいたします。

第二点目といたしまして、いま例規類集手元にございませんが、提案されている議案で別表第一を改定しようとするんですが、別表第一の現行料金、つまりリッター当たり六円四十銭、十リッター当たり六十四円、これの決定にあたっての昭和五十二年当時ですか、この改定は、五十二年当時、第一問の質問に関連いたしませんけれども、当時の原価の御説明を承りたいと存じます。これが質問の第二点でございます。

第三点といたしまして、今回改定しようとしている料金。市長は別表第一を改定して、十リットルについて百二十円の収集手数料にしようとする提案をなさっておりますが、今回提案している料金百二十円、それに対応する収集原価。つまり第一点の質問に基づきますけれども、その御説明を計数的に承りたいと存じます。

それから、第四点といたしましては、投入料金についてお伺いいたします。投入料金は昭和五十二年、つまり現行のリッター当たり六円四十銭、これに対応する当時の投入料金は幾らだったの

か。おわかりになりますか。それから今回提案しておられるこの新しい改定しようとする料金に対応する投入料金は幾らと計算しておられるのかについて、お伺いをいたします。

それから、もう一つ。第五点でございますが、傾向として、館山市内の収集量を見てまいりますと、大づかみで、素人の判断で漸減の、つまり全体の館山市内の収集量が漸減の傾向にあるやにうかがわれるんですが、私一人の感じですか、それとも計数的に漸減をたどって将来に向かっていっているのか。おわかりになりましたら計数的に全体の収集量の増減の傾向、私は漸減だと思っておりますけれども、ちょっと参考のためにお聞かせを願いたいと存じます。合わせて、世帯数。昭和五十二年、つまり現行料金を決めるときのリッター六円四十銭、当時の収集量それから収集する世帯数おわかりになったらお聞かせ願いたい。

同時に、今回改定しようとする、つまり今回の投入量は幾らに見込んだのか。合わせて収集の世帯数、おわかりになりましたらお聞かせ願いたいと存じます。

以上です。

○民生部長（鈴木 力君） お答えを申し上げます。

まず、第一点のし尿収集手数料のいわゆる料金体系、料金の仕組みはどのようになっているかということでございますが、いわゆる収集原価、コストでございますが、現行の料金につきましては六十四円、すなわちリッター当たりにして六円四十銭になるわけです。（「第一問は項目だけ。料金を聞いているんじゃないですよ」と呼ぶ者あり）原則的には収集原価、いわゆる保全公社で収集業務をやっておりますが、保全公社のいわゆる人件費と諸

経費、あるいはまた減価償却費、支払利息、これらを含めましていわゆる収集原価をまず料金体系の仕組みの中に入れております。それから処理経費といたしましては、し尿処理場におきましてし尿を処理いたします過程で薬品とか電気料、燃料代、これら人件費を除いた純然たる処理のためのランニングコスト。これをもつていわゆる収集手数料としておるわけでございます。

それから、昭和五十二年の四月に現行料金を改定したわけでございますが、当時の原価といたしましては、収集原価がリッターにいたしまして五円八十四銭でございます。これは先ほど申し上げました保全公社の人件費と諸経費でございます。これがいわゆる総費用額を収集量で除したものがリッター当たりの収集原価ということで、当時は五円八十四銭でございました。それから処理につきましては、いわゆるバキューム車一台、一・八キロリッター当たり三百円を当時三千円にいたしましたわけでございます。これにつきましては生し尿の処理と浄化槽汚泥の処理があるわけでございますが、浄化槽汚泥の処理につきましては市の公共施設以外は民間の業者が取り扱っておるわけでございます。これらにつきましてはすべて当時改正いたしましたして、一・八キロリッター当たり三千円にいたしましたわけでございます。これに対応する収集手数料といたしましては五円六十銭をもって処理原価といたしております。したがって、収集原価と処理原価を足しましたものが六円四十銭でございます——失礼いたしました。処理手数料につきましては、いわゆる投入料相当につきましてはリッター当たり五十六銭でございます。

第三点の原価に対応した料金でございます。

それから、四番目でございますが、投入料金につきましては、旧施設におきましては、いわゆる藤原の処理場におきましては、大体年間二千万強でございますけれども、二千万程度要したわけでございますが、消耗品費、燃料費、光熱水費を合わせまして約二千万でございます。したがって、この当時の料金は先ほど申し上げましたとおり一・八キロリッター当たり三千円ということでございます。

それから、新しい衛生センターの完成によりまして、いわゆる高度処理ということによりまして、ランニングコストというものが比較的高くなったわけでございまして、この内容を申し上げますと、いわゆる消耗品費——この中には薬品費、あるいはまた活性炭炭費等ございますが、大体月にいたしまして二百四十九万五千四百五十円という数字を出してございます、一カ月当たりでございます。それから燃料費でございますが、これは残滓を焼却するためのA重油の燃料費でございますが、月にいたしまして二百八十二万八千四百一十一円という数字が出ております。それから電気料につきましては月当たり四百一十一万五千四百九十九円ということとでございます。月間におきましてのランニングコストが九百四十三万九千三百六十円でございますけれども、これを十二カ月年間にいたしまして一億一千三百二十七万二千三百二十円でございますので、これを生し尿とそれから浄化槽のいわゆる汚泥でございます、これを処理する、収集量というものが二万八千三百四十四キロリッターでございますので、所要経費をこの処理量で割りますと、いわゆる一キロ当たりでございますが、三千九百九十七、約四千円という数字になるわけでございます。これが四番目

の新しい投入料でございますして、これは収集手数料に勘案いたしますとリッター当たり四円、いわゆる十リッター当たり四十円ということになるわけでございます。

次に、五年度の収集量でございますけれども、収集量につきましては、いままでは増高をしております、五十四年度までは約一割程度、毎年量そのものが増加しておりますけれども、五十四年度以降におきまして減少の傾向にございます。特に五十五年から五十六年度にかけましては六・二六割というふうに減っておりますが、一つには従量制に移行したことによりましてこういう結果が出たということが原因ではなからうかと思えます。五十七年度以降におきましては計画の上では約〇・五割乃至一割の減少を見込んでおります。

次に、世帯数でございますけれども、昭和五十二年の現行料金の設定当時は、件数でございますが、一万六百八十四件、これは実績でございます。それから五十五年度におきましては一万九百八十七件、五十六年度におきましては一万一千七十三件でございます。こういう数字になっております。したがってまして量は今後は減少ぎみである、件数につきましては横ばい、あるいは若干ふえている、こういうことになるかと思えます。

〇一九番（石井輝久君） 第一点の質問につきましては、要するに当館山市だけじゃないでしょうが、料金体系というのは、原価計算、一つには人件費、第二番目には諸経費、第三番目には減価償却費、第四番目には借入金に対する支払い利息、これを足したものである。それにさらに足したもの合計、この金額とそれからそのほかに全体の収集量、何キロリッターというんですか、だから

金額割ることの収集の全体の量、こういうことで料金体系ができていっているという御説明、第一点は御説明をいただいて了承をいたしました。

ところが、第二点の質問で、しからば昭和五十二年で人件費は幾らだったんですか、諸経費は幾らだったんですか、それに見合う金額を私は質問しているんですが、ただいまの御答弁では全部で五円八十四銭だということで、五円八十四銭に至る項目別の御説明をいただかなかったんですが、答弁漏れですよ。私はよくかみ砕いて——質問の仕方が悪いかもしれませんが、ひとつゆっくり落ちついて答弁漏れのないように御説明を承りたいと存じます。答弁漏れがありますと、それについて三回の質問のうち一回をそれに費やさなければならぬ。答弁漏れははずしてもらわなければいけないという要求をしなくてはならないんですが、今回はそういう要求はなくて再質問にお答えいただければ結構ですが、おわかりにならないければあとで文書で御提示をいただいで結構ですが、しかし事はいろいろ重大な問題を含んでおりますので、あえて五十二年当時の料金体系を計数的に御説明をもう一遍お願いしたいと思います。

それから、先ほど、第三点の質問も、今回改定しようとしている市長の提案は百二十円であるけれども、これに対応するし尿収集原価の試算を伺っている。これは第二点と同じなんです。つまり人件費、諸経費、減価償却費、支払い利息、計幾らだと。それで収集量——当然収集量がなければ計算できませんから。総額に対する割ることの収集量で幾らか。それについてお伺いするわけです、第三点目の質問ですが。

それから、投入料金の第四番目の質問につきましては、ただいまの御説明で了解ができました。ですから、委員会の審議等もございまして、投入料金についての質問は、第四点目の質問は打ち切ります。

第五点目の質問の、漸減の傾向にあるということも、第二点目の質問と同様に、ただいまパーセントをもってお示しただきましたが、私はパーセントの質問をするんじゃないくて、計数的にということとは、現在把握している数量があると思うんですよ。それから将来に向かって見込み数量があると思うんですよ。パーセントじゃなくて、その年度別の収集総量、それから世帯数——世帯数につきましては計数でただいま御説明をいただきましたんで、その世帯数の計数の質問は打ち切ります。打ち切りますが、年度別の収集総量、大体幾らくらいに把握しておられるか、これの御説明を承りたいと思います。

以上、再質問いたします。

○民生部長（鈴木 力君） 昭和五十二年の四月に現行料金を改定したわけでございますが、当時のいわゆる収集原価につきましては細かい資料現在持ち合わせてございませんので、取り寄せましてお答え申し上げます。

それから、今回の料金改定の収集原価の基礎となりました、いわゆる経費でございますけれども、人件費につきましては五十七年度の見込みといたしましては大体一億一千七百八十六万七千円、それから諸経費といたしましては三千三百九十五万四千円、減価償却費が七百五十五万五千円、支払い利息が四百六十四万八千円、合わせて一億六千三百五十二万四千円でございます。収集量が

五十七年度が、年間二万一千二百キロリットルを予定しております。したがって、この収集量で諸経費を割りましたものが収集原価といたしまして七円七十一銭という数字でございます。リッター当たり。以下、五十八、五十九年の向こう三カ年間をそのように計算しまして、新しい料金というものを算出してございます。

次に、年度別の収集量でございますけれども、昭和五十二年度におきましては、実績でございますが、年間二万一千三百キロリットル、五十三年度が二万二千二百四十キロリットル、五十四年度が二万三千九十キロリットル、五十五年度が二万三千六百一十キロリットルでございます。

○一九番（石井輝久君） 五十二年の度の人件費、諸経費、支払い利息、減価償却等々わからなかった。つまり現行の十リッター六十四円の料金体系の基礎的な計数は、いま取り寄せているというんですか、それがもとで六十四円ができたということでございますが、ただいまの御説明でしからは今回提案したものは、五十七年度の原価は、ただいまの部長の御説明で七円七十一銭、つまりリッター当たり。五十七年度ということ、今回提案したこの百二十円のものですね。百二十円として、十リッター当たり。だからリッター当たり十二円。五十七年度、つまり提案されているものは、附則で、「この条例は、昭和五十七年四月一日から施行する」、五十七年度当初からつまり百二十円にしようとする、しかしただいまの御説明によりますと、五十七年度の収集原価の試算によりますと七円七十一銭、今回提案しようとしているものは十二円、リッター当たり。七円七十一銭の原価のものを十二円、リッ

ター当たりで提案されておられるということでございます。

さらに、そのあとで、部長の御説明は、単年度の、五十七年度の御説明を承った、しかし八、九向こう三カ年の原価を計算していくと、ただいまの御説明でリッター当たり八円五十三銭であるという、こういうただいま御説明をいただきました。しかし、その基礎になる人件費が幾ら、支払い利息で幾ら、諸経費が幾ら、こういう計数の御説明はカットされておられた。

つまり、五十二年当時の原価基礎になる御説明を資料不足でいただいてない、同時に五十七年度単年度の御説明はいただいたけれども、その原価は七円七十一銭である、ここまではわかった。今回提案している十二円に対応している原価は幾らかという八円五十三銭であるという御説明をいただいたからこれもわかりました。

しかし、その基礎値になる計数的な御説明が全然なかったんで、これも質問に対する答弁漏れです、と私は思います。それは別として、はしりますけれども、要するに単年度五十七年度だけとってみるとリッター当たり七円七十一銭でやっていけるんだというところでございます。ところが、ただいまの説明では、以下省略しますけれども、五十八年度と五十九年度の人件費、諸経費等々に対する御説明がなかったんで、ないとしてもいろいろ計算した結果で八円五十三銭の原価にリッター当たりなるんだという御説明はただいまいただいたわけですね。

しかしながら、向こう三カ年で八円五十三銭という試算をされながら今回十二円の提案をなさっておるか、それにはいろいろな事情もあるでしょうけれども、しかしこれは少なくとも来年度五十

七年の四月一日から五十八年の三月三十一日までの間の単年度をとってみればリッター当たり七円七十一銭でやっていける、こういうことでございましょう。だけれども、そうじゃなくて、五十八、五十九年度先を見越して計算をしてみると、リッター当たり八円五十三銭になるんだよ、こういう御説明だったように受け取りますが、これは受け取り方が違いますか。

いずれにしても、リッター当たり七円七十一銭、あるいは向こう三カ年の平均をとって八円五十三銭といたしましょうか、それにしても十二円との間に開きがある。これは御当局としていかようにお考え——首を振っておられますから、私が言っておることと若干食い違いがあるんですか。そこらの御説明を承らないと、ちょっと頭の中に理解しかねる面があるわけでございます。

それで、最後の質問になります、リッター当たり十二円と七円七十一銭、あるいは向こう三カ年の八円五十三銭との、十二円と八円台との開きに対する提案——向こう三カ年八円五十三銭でやっていけるという試算がありながら、リッター当たりなんで十二円で提案したのか。これは質問なんです。

時間も経過しましたから、五十七年度以降の人件費、あるいは諸経費、減価償却費、支払い利息、これにつきましては御説明を承らないで結構です、打ち切りますから。

ですから、十二円と七円七十一銭との差、あるいは八円五十三銭との差、これに対する当局の考え方。これでいいと思っておるか。これは質疑を通じて大体わかったでしょうから、最後に市長さんから御答弁を承りたいと存じます。

それから、もう一点。先ほども質疑がありましたけれども、少

なくも館山市の清掃審はリッター当たり十二円で市長の諮問に答申されておるわけで、それはいままでの質疑でわかりました。しかしながら、付帯条件といいますが、それにただし書きといいますが、原文は見ておりませんけれども、市の御努力によって市民の合意が得られればやむを得ずリッター当たり十二円でもよかり、という御答申であらうかと承っております。

そうすると、ただし書き、付帯条件、用語はどっちでも結構でございましょうけれども、市民の合意が得られるようにという、しかもそれは清掃審の努力ではなくて、市の、御当局の御努力によって市民の合意がリッター当たり十二円で得られるようにと清掃審は市に答申をしているわけです。

そうすると、この答申を受けた市長は、市当局は、市民にどのような、合意を得られるような御努力をなさったのか。あるいはどのような経過をたどって清掃審の答申の具体的な文言というんですか、に対して、市長はどのようにお考えになっておられるのか。

この二点を承って、三回目でございますから、もう一遍の質問はいたしませんから、ごくわかりやすい用語で明快に御答弁承りたいと存じます。

○市長（半澤良一君） お答えをいたします。

五十七年度の保全公社の収集経費がリッター当たり七円七十一銭でございまして、衛生センターの処理費が四円でございます。両方合わせますと十一円七十一銭になるわけでございます。

五十九年度が、保全公社の収集経費がリッター当たり八円五十三銭でございまして、市の処理経費を一応四円とそのまま押さえ

て十二円五十三銭になるわけでございます。

料金改定を毎年行うということもどうかと思いますので、五十七、五十八、五十九年度の三カ年間をとりまして、五十七年度はやや黒字、五十八年度はとんとん、五十九年度はやや赤字、三年間を通じてプラスマイナスゼロ、そういうような計算で、八円プラス四円ということで十二円を料金といたしたいと考えているところでございます。

なお、清掃審の御答申でございすけれども、私が承っておりますところでは、市民の合意を得た上で決めるということではなくて、この料金やむを得ない料金である、しかし上げ率も高いことだから、市民に収集手数料の上げ幅がこれだけ大きくなった経過理由をよく説明いたしなさい、PRをしなさい、そういう御意見であったように承っておりますので、三月の広報等でこれを御説明申し上げるつもりであります。

○議長（林 豊君） 以上で一九番議員君の質疑を終わります。他に御質疑はございませんか。——御質疑なしと認めます。以上で質疑を終結いたします。

委員 会 付 託

○議長（林 豊君） ただいま議題となっておりす議案第九号乃至議案第二十二号の各議案は、お手元に配付してあります議案付託表のとおり、それぞれ所管の常任委員会に付託いたします。

午前の会議はこれにて休憩とし、午後一時再開といたします。

午前十一時四十三分 休 憩
午後 一時 三分 再 開

○議長（林 豊君） 午後の出席議員数二十三名、休憩前に引き続き会議を開きます。

議案の上程

○議長（林 豊君） 日程第三、議案第二十三号乃至議案第二十五号昭和五十六年度館山市一般会計及び特別会計補正予算を一括して議題といたします。

質疑応答

○議長（林 豊君） これより質疑に入ります。

通告がありますので発言を許します。

一番議員神田守隆君。御登壇願います。

（一番議員神田守隆君登壇）

○一番（神田守隆君） 議案第二十三号館山市一般会計補正予算について質問いたします。

質問は議案書に基づいて行います。

一六ページ寄附金として、一般寄附金として七百五十万円が歳入に計上されていますが、これはだれからの寄附金で、その使途についてどのようなになっているのか御説明を願いたいと思います。

次に、二〇ページ七目防災対策費についてでございます。耐震性井戸貯水装置の設置関係で三千三百六十一万三千円の減額についてであります。説明書によりますと「水源等調査の結果、不適のため年度内事業実施ができないことによる減額」としていますが、地震対策の要は、一つは水の確保であることを考えると

き、はたして、市当局は年度内実施は無理としているが、どのような経過なのか。予定地として何カ所について検討したのか。さらに今後どのように考えているのか。設置はしない考えなのかをお聞かせ願いたいと思います。

次に、二二ページ保育所費についてであります。五百二十八万六千円の減額であります。財源内訳を見ると、国、県支出金が二千五百九十九万三千円の減額となる一方、一般財源からは二千三百三十四万三千円が増額で繰り出されています。国、県支出金も減額、一般財源からの繰り出しも減額というのならわかりませんが、国、県支出金が減った分を一般財源から繰り出しをしている。なぜこういうことになるのか御説明を願いたいと思います。

次に、二三ページ生活保護費についてあります。扶助費が五千六十万八千円の減額であります。説明書によりますと、扶助人員の減のためとしているわけですが、たとえば法外援助費は予算では二千四百九十人を見込んでいました。この補正では千三百二十人と約半分に減っているわけであり。どうしてこんなに大きく減ったのか御説明を願いたいと思います。

次に、二五ページであります。農地費の農免道路整備事業委託料の減額二千四百四万四千円についてであります。説明書によりますと、この道路は竹原地区から三芳村御庄に至る道路であることがわかりますが、本年度事業費の配分が減額されたことによるとしています。なぜ減額されたのか。また、今後の実施見通しについてはどういうふうになってくるのかお聞かせ願いたいと思います。

次に、二八ページ消防施設費についてであります。防火水槽の

建設工事に係る工事等請負費百万円の減額についてであります。説明書では「畑地区防火水槽建設工事資材搬入困難のため取り止め等による減額」としていますが、防火水槽を必要としているところはまだまだあると思うわけですが、他の地区で設置することについて検討しなかったのかどうかお聞かせ願いたいと思います。

次に、三〇ページ小学校の学校建設費についてであります。百三十九万円の減額補正であります。その財源内訳にわたってみますと、国、県の支出金が九百七十八万五千円、そして地方債が五百万円の減額、その一方で一般財源から千三百三十九万五千円が増額になっているわけであり。なぜこういうことになったのか御説明を願いたいと思います。

三二ページであります。市民センターの施設費についてであります。補正額はゼロであります。財源内訳が一般財源を減らしてその分をその他の財源に求めているわけであり。市民センターの使用料にその財源を求めようとするものと思いますので、市民センターの使用料について社会教育施設として考えるならば本来もっと料金も安くあるべきだと考えるわけであり。その市民センターの使用料についての基本的な考え方がどこにあるのかお聞かせを願いたいと思います。

次に、三三ページ公債費についてであります。二千七十二万八千円の補正であります。衛生債あるいは教育債についての繰り上げ償還に関する補正と思いますが、この補正予算で市債の増は二千七百八十万円見込まれています。今年度末の地方債残高は四〇ページにあるとおり六十九億五千二百万一千円と約七十億円が見込まれております。地方債の増は財政硬直化の原因として警戒

しなければなりません。公債費比率は何％に押さえる考えをお持ちであるか。また今後の地方債残高のピークは何年で、どのくらいの高くなるというふうに見込んでいるかお聞かせ願いたいと思います。

次に、三三ページ諸支出金についてであります。財政調整基金に二億円の積み立てをするわけであり。年度末で財政調整基金の残高は幾らとなるのか。財政調整基金の今後の使い道についてどう考えているのかお聞かせ願いたいと思います。

以上であります。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 神田議員の御質問にお答えをいたします。

まず、一六ページの寄附金でございますが、寄附金七百五十万円につきましては、今年度船形小学校防音改築工事を実施しました。が、東京都船形学園から七十三名の児童が船形小学校に在学しておりますので、工事費の一部として東京都からの寄附金でございます。

次に、二〇ページ総務費の防災対策費減額についてでございますが、御質問の耐震性井戸貯水装置建設につきましては、年度内の工事施行を見送った経過についての御質問でございます。北条地区内に建設を予定いたしました。候補地として中央公園、神明神社、諏訪神社等を挙げ、それぞれ現地調査を実施いたしました。が、避難場所、輸送等を考慮して中央公園に選定し、井戸の試掘を行い、水質検査を実施いたしましたところ、飲料不適でございましたので、再び候補地を安房高校、安房南高校と選定し、まず安房高校と折衝、剣道場わきの現在の井戸の場所ならよいと

の了解を得ましたが、場所が狭く、その他の場所は校舎増築計画があるということで断念をいたしました。次の候補地である安房南高校と折衝いたしました。現在校庭整備中でございますので、その計画の中に乗せてもらえばよいとの了解を得られましたので、早速水源調査を行いました。水質は処理可能でございますが、水量がやや少ないという結果でこれも断念いたしました。そこで再び候補地選びとなったわけでございます。

以上のとおり建設予定地の水源等調査結果が不適のため、年度内事業実施ができなくなった経過がございます。なお、このたびの経緯にかんがみまして、昭和五十七年度は水源調査委託料をお願いいたしまして、用地を確保する計画でございます。

次に、二二ページの保育所費でございますが、まず歳出の財源内訳でございますが、国、県支出金は児童数の減少に伴う措置費の国庫負担金二百五十九万五千円と県負担二百六十九万九千円及び産休代替職員の補助金百六十九万五千円の合計額となっております。一般財源の二千三百三十四万三千円は、保育所費の減額後の予算額二億二千九十七万四千円に対し、これらの財源充足のためのものでございます。

支出の減額が歳入の補正額に比して少ないとの御指摘でございますが、保育所費のうち八四・八％、額にいたしまして一億八千七百余円が人件費でございます。児童減少に伴う歳出については補正をお願いいたしております。

二三ページの生活保護費でございますが、保護費中医療扶助費の四千百二十五万一千円の減は、当初予算において一人平均九万円、三百三十五人を見込みました。金額において一人平均六千二

百六十二円、人員において十六人減少見込みでございます。生活扶助費におきましても十二人、一人平均八百四十四円の減少が見込まれておりますことと、法外援護費、すなわち付添看護料差額でございますが、これも対象件数が当初八十三カ月計上してあったものが四十四カ月分と見込まれますことから、総額五千六十万八千円の補正をお願いするものでございます。

財源内訳は、生活扶助、医療扶助費は同額の十分の八、法外援護費は二分の一の額をそれぞれ計上してございます。

次に、農林水産業費のうちの農免道路整備事業費の減額理由でございますが、委託料につきましては、当初一億三百三十四万三千円予算計上いたしました。が、国からの配分が七千九百二十九万九千円となりましたので二千四百四万四千円減額するものでございます。

工事請負費につきましては、当初四十万円計上いたしました。が、委託料で対処することになりましたので減額するものでございます。なお、減額する四十万円につきましては、委託料の七千九百二十九万九千円に含まれております。

次に、公有財産購入費の減額につきましては、当初畑四百六十八平米、山林三千六百二十三平米の買収を予定いたしました。が、本年度は畑十四平米、山林二千三百三十七平米買収することになりましたので、差額を減額するものでございます。

次に、二八ページ消防費、消防施設費についてでございますが、御質問の防火水槽建設工事につきましては、当初坂田、大賀、稲宝貝、畑の五地区を予定しておりましたが、畑地区の橋梁吉野橋が重量制限をとりましたため、資材搬入困難となり、工事を見送

ったものでございます。なお、橋の工事が完成後に工事を実施する予定であります。

なお、消防施設につきましては、地区及び地区消防団からの要望を市及び消防団本部において査定し予算化しているところでございます。

次に、小学校費学校建設費についての御質問でございますが、小学校学校建設費の財源内訳のうち、国、県支出金九百七十八万五千円の減額につきましては、船形小学校改築事業費補助金九百五十三万五千円、神戸小学校校舎増築事業費補助金二十五万円の減額であります。理由といたしましては、船形小学校につきましては本年度の学級数の減により、国の補助対象面積の減によるものでございます。神戸小学校につきましては、実施単価の減によるものでございます。

また、地方債の五百万円の減額につきましては、船形小学校は補助対象面積の減少により六百七十万円の減額、神戸小学校は起債対象経費の増により百七十万円の増額によるものでございます。

次に、中学校費の学校建設費でございます。中学校学校建設費の財源内訳のうち、国、県支出金九十六万六千円の減額につきましては、第三中学校校舎増築事業の実施面積の減によるものでございます。

また、地方債の三千百万円の増額につきましては、第三中学校校舎増築事業の起債対象経費の増により四百万円、県貸付金の貸付決定により二千七百万円の増額であります。

次に、教育費の昭和五十六年度市民センター施設費についてでございますが、市民センターにつきましては、五十六年度施設費

予算五千三百八十五万七千円に対して使用料収入見込みが千百五十一万円ありまして三九・八％となっております。この施設費から人件費、工事請負費及び備品購入費を除いた金額は二千百九十一万四千円であります。この経常費のうち、電気料、水道料、燃料代のみでも千二百五十二万六千円でありまして、使用料収入を上回っております。新年度におきましても同様の状況でございまして、昭和五十一年四月実施の六年を経過した現行料金を考えましても、使用料は高くないというふうに考えております。

次に、三三ページの地方債残高についてでございますが——公債費についてでございますが、御案内のとおり自主財源の乏しい当市といたしましては、多様化、高度化した住民の行政需要に対応するためには、必然的にその財源を他に依存しなければならぬわけでございますが、その一つの手段として市債の借入を行ってきたところでございます。しかし、地方債は将来の財政負担を伴うものであり、この増大化は財政の硬直化につながるものでございます。

根幹事業実施計画に盛り込んだ今後の実施事業を基本として推計をしてみますと、五十九年度に地方債残高が九十五億程度となりますが、一つの指標であります地方債許可制限比率は一四〇％程度と見込んでおります。

今後、市債の借入れにつきましては、適債事業の選択と各年度の決算状況を踏まえまして、また金利水準の推移を見ながら過去の高利率の借入分について繰り上げ償還を行い、財政の健全性を維持しながら行政水準の向上に努めてまいります。

最後に、財政調整基金の基本的な考え方についてですが、現在

基金は七億四千八百万円を積み立てておりますが、将来の地方財政は国の行財政の影響を受けて、地方債発行額の縮小、補助金の見直しに伴う単独事業の増大等、さらには一部に論議されております地方交付税の引き下げ等、地方財政を取り巻く展望はより一層厳しさが増すものと考えなければなりません。

このような中であって、将来とも住民福祉の向上、社会資本の充実を図りながら行政水準の維持向上に努めるためには、自主財源の少ない当市といたしましては年度間にわたる財源の確保が必要でございます。

このような考え方を基本として、年度間の財源調整と将来の大型プロジェクト建設等の財源として、各年度の決算状況を踏まえて、余剰金のうちから基金積み立てを行ってまいりましたが、今後事業実施計画に合わせて有効適切な資金活用を図ってまいりたいと存じます。

以上、答弁を終わります。

○一番（神田守隆君） 保育所費でございます。どうもよくわからないんですが、児童数が減少したと、児童数の減少による国の支出金が減ったんだ、こういうお話なんですけれども、その一方で一般財源からの繰り出しが非常にふえているわけですから、そこらの関係をもう少しお聞かせを願いたいと思います。

措置園児数は五十六年の四月一日現在では定員に対して六五・四％、定員四百八十人に対してこういう数値が出されていますけれども、そうするとこの措置児童数をふやす、定員に対して措置児童数の数がふえれば国、県の支出金がふえて、そして館山市の負担は結果的に減ることになる、こういう理解をしていいのかど

うか。措置児童数が減れば、館山市の財源からの繰り出しは少なくなるという、そういう理解の仕方ができるのかどうか。

それと、生活保護費については、ここ数年の生活保護の館山市の扶助人員の動向はどういう傾向にあるか。これは全国的な傾向との関連ではどうなのか御説明を願いたいと思います。

それから、消防施設費の關係で、地区消防団の要望に基づいて予算をつくる、こういうお話なんですけれども、現在地区からの要望というのは幾つ出ているのか。そして、市独自に必要なと考えている数字があれば、それは幾つなのか、防火水槽の件ですね。

以上です。

○民生部長（鈴木 力君） まず、御質問の第一点でございますが、保育所費におきましては、御指摘のように児童数が、いわゆる対象児童数というものが増加すれば、国、県補助金というものは、当然国におきましていわゆる十分の八、県の十分の一ですか、この負担金というものは当然増加されてくるわけでございます。

なお、今回お願いいたしましたのは、逆に児童数の減少ということによりましての財源内訳の変更でございます。児童数が減ることによりまして国庫負担金、それから県の負担金、これが減少したわけでございます。それから、それに伴いまして保育料が減ったわけでございまして、しかしながら全般的な保育所費におきましては、保育の人員費等におきましては、かなり超過負担というところもあるわけでございまして、総体的におきましては、今回の補正におきましては一般財源というものが財源内訳としては増加する、こういうことでこの数字をお願いしたわけでございます。

それから、生活保護の関係でございますけれども、五十六年度におきましては、生活扶助費でございますが、十二名減少ということで予算的なものを減額したわけでございます。

この傾向といえますのは、現在におきましては、館山市におきましてはやや減少きみである、そういうことから五十六年度におきまして十二名減少、これは当初予算に比較しまして十二名減少したわけでございます。

それから、全国的な傾向といたしましては、やはり現在年金制度、あるいは生活水準というものが向上しております関係で、国におきます生活保護の基準をある程度カバーして上回ってきたというようなことから、全国的にも若干対象者が減少している、このような見方をしているわけでございます。

それから、防火水槽の設置でございますけれども、現在消防法から見ますと、設置されたいわゆる充足数というのは大体六二名ということでございまして、まだ設置する必要というものは当分続くわけでございます。現在、各地区からの要望というものはそれぞれあるわけでございますが、いろんな財政上の関係、あるいは国の補助金等の関係をいろいろ勘案いたしまして、大体年間五カ所乃至六カ所程度を年次計画によりまして増設を計画しておるわけでございまして、今後におきましても必要数に對しまして年次計画でもって漸次増設を考えておるところでございまして。

○一番（神田守隆君） 保育所費について一点質問して、私の質問を終わります。

そうすると、保育所の措置児童数が、措置園児数が低くなると国の負担は減って市の負担がふえるということですから、いま具

体的な数字がどうかという、あるかどうかわかりませんが、六五・四％、現在の水準が。それを九〇％の水準にしたら、それだけたくさん園児の保育を行う、そうすると国の負担が幾らふえて、そして市の負担が幾ら減るんだというような具体的な数字、いまお持ちでないかもしれませんが、わかればお聞かせいただきたいと思います。大まかな、どのくらいのものなのかというものを見当つたいと思いますので。

○民生部長（鈴木 力君） 先ほども申し上げましたとおり、児童数が増加すれば、いわゆる国の負担というものは十分の八でございしますので、九〇％となればそれに相応した国の負担金は増額される。県におきましても十分の一の措置費の負担基準でございしますので、それに対応した負担金というものも増額されると、このように考えております。

ですから、保育所におきますその他保育の人員費のいわゆる国におきます基準を超過したものにつきましては当市が負担する。あるいはまた、保育所におきます施設の改善、補修とか、そういったものに対する経費というものは一般財源によりまして負担するということでございます。

○議長（林 豊君） 以上で一番議員君の質問を終わります。

以上で通告者による質疑を終わりますが、通告をしない議員で御質疑ありませんか。——御質疑なしと認めます。以上で質疑を終結いたします。

委員会付託

○議長（林 豊君） ただいま議題となっておりまして議案第二十三

号乃至議案第二十五号昭和五十六年度館山市一般会計及び特別会計補正予算は、お手元に配付してあります議案付託表のとおり、それぞれ所管の常任委員会に付託をいたします。

請願書の上程

○議長（林 豊君） 日程第四、請願第一号地域の公共交通確保に関する請願書を議題といたします。

請願書の朗読を願います。

（書記朗読）

○議長（林 豊君） 朗読は終わりました。

請願書の趣旨説明

○議長（林 豊君） 次に、請願趣旨について紹介議員の説明を求めます。

一二番議員藤田益治君。御登壇願います。

（一二番議員藤田益治君登壇）

○一二番（藤田益治君） ただいま議題となりました請願第一号地域の公共交通確保に関する請願書につきまして、紹介議員を代表いたしまして請願の趣旨について御説明を申し上げます。

本請願の要旨は、お手元にお示し申し上げましたとおりですが、路線バスは地域住民にとって必要不可欠なものであることは周知のとおりであります。

しかしながら、過疎現象等による運送人員の減少のため、路線バス事業の全部または一部の遂行が困難となっている現状から、地方におけるバス路線の運行を維持するための対策が講じられて

まいりました。そこで、バス事業の充実を図るため、助成措置が施され、地域住民の福祉が確保されてきたところであります。

しかるに、これが廃止による影響は、重大かつ甚大であることは申し上げるまでもございません。

ゆえに、諸般の事由から、バス路線の廃止を余儀なくされることになれば、地域住民はもとより、特にお年寄り、子供たちは即座に困窮し、通学、通勤、買い物、病院、役所への所用も不可能となりかねない要素をも含む一方、路線バスの公共性の面を御推察の上、本請願の趣旨を御理解いただきまして、満場の御賛同を賜りますようお願い申し上げます、請願の説明といたします。

○議長（林 豊君） 以上で説明は終わりました。

委員会付託

○議長（林 豊君） 本請願書につきましては、総務委員会に付託いたします。

請願書の上程

○議長（林 豊君） 日程第五、請願第二号し尿くみ取り料金の値上げに反対する請願書を議題といたします。

請願書の朗読を願います。

（書記朗読）

○議長（林 豊君） 朗読は終わりました。

請願書の趣旨説明

○議長（林 豊君） 次に、請願趣旨について紹介議員の説明を求

めす。

一番議員神田守隆君。御登壇願います。

(一番議員神田守隆君登壇)

○一番(神田守隆君) し尿くみ取り料金の値上げに反対する請願の紹介をいたします。

昭和五十七年度よりし尿くみ取り料の大幅な値上げに関する議案が上程されているわけですが、この値上げは値上げ幅が約二倍という大幅なこと、さらにこの四月一日から実施するといふなど、多くの市民にとって納得のできないものであります。

新処理場の運営経費は人件費を除いてすべて料金に含めるなどというのは、館山式の受益者負担論とも言うべきものであります。市長が施政方針でうたっている市民生活優先の理念を裏切るものと言わなければなりません。

本来、し尿やごみの収集処理など、市民生活にとって必須の事柄は市が責任をもって行うべきものであります。市民の負担は最小限度に押さえられねばなりません。

こうした立場から、し尿くみ取り料金の値上げに反対する千六百十二人の請願を紹介するものであります。

以上。

○議長(林 豊君) 以上で説明は終わりました。

委員会付託

○議長(林 豊君) 本請願書につきましては、文教民生委員会に付託いたします。

請願書の上程

○議長(林 豊君) 日程第六、請願第三号日本農業再建、食糧自給率向上のための食糧制度拡充を求める請願書を議題といたします。

請願書の朗読を願います。

(書記朗読)

○議長(林 豊君) 朗読は終わりました。

請願書の趣旨説明

○議長(林 豊君) 次に、請願趣旨について紹介議員の説明を求めます。

二五番議員五十嵐 昇君。御登壇願います。

(二五番議員五十嵐 昇君登壇)

○二五番(五十嵐 昇君) 私は、館山市沼一八二の三、森博康氏より当市議会に提出されました請願第三号日本農業再建、食糧自給率向上のための食糧制度拡充を求める請願書について、その趣旨に賛同し、紹介議員を代表してその趣旨説明を行い、議員各位の満場一致の御賛同をお願いする次第であります。

思うに、最近の米の需給事情は、五十五年度産米が全国的冷害によって作柄指数八七という不作となり、生産量が九百七十五万トンとなり、五十六年度の総需要見込み千七十五万トンを百万トン下回って、五十四年度産米の持ち越し百八十万トンの活用によりこの不足を補って、五十七年度に九十万トン前年度産米を持ち越した次第といわれておるのであります。

他方、等級別に見れば、五十六年度産米も北海道、東北等では低温、風水害の被害を受けたため、その減収はもちろんのこと、

大幅に三等米が増加している現状であります。

そこで、五十七年度の転作等目標面積の調整が行われ、当面米の需給関係には不安はないといわれ、転作目標面積についても四万六千ヘクタールの緩和措置がとられ、主食の米についてはゆとりのある需給状態となっているのであります。

いま、仮に昭和十七年より今日まで四十年間実施されてきたこの制度を廃止、自由化する等は、この自給自足の弱体、農家経済の危殆に陥ることはもちろんのこと、国民生活を混乱に陥れることも十分に予測されるところであります。

そこで、米、麦はもちろんのこと、大豆、トウモロコシ、飼料米等の主要穀類を管理品目に組み入れ、総合的な自給自足制度を堅持し、国民生活の安定を期すべきであることは論をまたないところであります。

わが国の過去を振り返ってみると、四十年代には米の生産過剰と米の消費量の減少に伴い生産調整を余儀なくされて来、また五十年代の今日では食糧制度の存続の危機に直面しつつあるのが現状であると存するのであります。

そこで、いままで申し上げました米の需給状況、あるいはその他の食糧事情等の解決にはぜひともこの食糧制度を拡充強化いたしました、農産物の自給の向上をさせる施策を確立し、国民に安定供給を行うこと。食糧制度の管理品目を現在の米、麦だけでなく、大豆、飼料米等を管理品目に組み入れること。このため当面飼料米を転作対象作物に指定すると同時に、政府は飼料米品種の改良、普及に積極的な対策を講ずること。当館山市議会として右三項の内容を決議し、地方自治法第九十九条第二項に基づく意見

書を関係行政庁に提出すること。以上、四点につきまして趣旨説明を行い、満場の議員の皆さまの御賛同を得たく、重ねて紹介議員等を代表いたしましたし、お願い申し上げます。

○議長（林 豊君） 以上で説明は終わりました。

委員 会 付 託

○議長（林 豊君） 本請願書につきましては、建設経済委員会に付託いたします。

延 会 午後一時五十四分延会

○議長（林 豊君） お諮りいたします。

本日の会議はこれにて延会いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。よって本日はこれにて延会することに決しました。

次会は、明三月十六日午前十時開会とし、その議事は昭和五十七年度各会計予算の審議といたします。

○本日の会議に付した事件

一、日程の追加・議案第二十七号

二、議案第八号乃至議案第二十五号

三、請願第一号乃至請願第三号